

庄内町立図書館だより

よめっちゃ

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2016.11.30(No.19)



☑ 書館カレンダー

★開館時間

平日 午前 9:00~午後 6:00

土日 午前 9:00~午後 5:00

⇒休館日

12月



日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

特別貸出期間 12/3(土)~28(水)
10冊まで貸出OK 1/14(土)~29(日)

1月



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

おはなしらんど★クリスマスのおはなし会

★日時：12月21日(水) 10時~

★会場：余目第一公民館



庄内町内藤秀因水彩画記念館

記念館では只今2つの特別展を開催中です!(~12/28)

内藤秀因記念
第19回
水彩画公募展
入賞作品展



応募総数一四〇〇点のうち、
受賞作四十九点を展示します

同時開催

辻のりこ 七宝焼の世界

受賞作を中心とした七宝展出品作を展示

2016年11月26日(土) → 12月28日(水)

庄内町在住の
辻のりこ氏による
七宝焼の額絵およ
びジュエリー20点
をご紹介します



辻のりこ「四重奏」

庄総高インターンシップ

11/8~10の3日間、庄内総合高校の学生さんがインターンシップ(職場体験)に来てくれました。カウンター業務や絵本のコーナー作成、司書や学芸員の仕事体験などたくさんの仕事をしていただきました。↓二人のおすすめの本も紹介してくれました♪

『バッテリー』あさのあつこ/著(教育画劇)

この本は、新田市に引っ越してきた主人公の原田巧がキャッチャーの永倉豪と出会って新田東中でバッテリーを組んでいくという野球の作品です。一番面白いとおもうのは、主人公の人間性の部分です。そして人によって感じるものが違うと思うのでぜひたくさんの人に読んでもらいたいです。



『名探偵コナン推理ファイル 数と図形の謎』

青山剛昌/原作,阿部ゆたか/まんが(小学館)

この本は、小中学生向けの漫画で数や図形、計算式を漫画のストーリーで分かりやすく解説しています。いろんな形の面積を詳しく説明している所や線対称の工作の図形を紹介している所が僕のおもしろい所です。コナン好きな人、高校生にもオススメです。

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP → <http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

職員のおすすめ本

プレゼント



『ラオス山の村に図書館ができた』

安井 清子/著(福音館書店)

<ラオスの子供たちに絵本との出会いをプレゼント>

ラオスという国がどこにあるかご存じですか。中国、ベトナム、ミャンマー、タイ、カンボジアの5か国に囲まれた東南アジアの海のない650万人の多民族国家です。また、庄内町国際交流協会では、JICA青年研修事業の研修先としてこれまで4年間(毎年約10名)で39名のラオスの若手行政官を受け入れ、庄内町の農業振興や農産物の六次産業化を中心とした研修をしています。

ラオスの国は今から約30年前まで内戦があり、北部のモン族が住むゲオバウ村に子供たちへのために図書館を作った日本人女性の奮闘記です。読んでみると戦後間もないころの貧しかった日本の姿と重なり、ラオスの人々の懸命に生きる姿に感動を覚える本です。癒しの国ラオスと言われる国の文化や心の豊かさにもふれることができる1冊です。



『絵本作家という仕事』 講談社/編

Xmas やお正月に絵本のプレゼントをお考えの皆さん! また、普段から絵本が大好きという貴方! いや、絵本なんて子どもの読み物でしょ? と遠ざかっている方々... 一度、ページを開いてみて下さい。自由な時間が流れ、平和な時間が流れ、美しく、楽しく、ユーモアがあふれる絵本の世界をつくりだしている「絵本作家」となった人たちは、人生をどう歩んできたのか。第一線で活躍する絵本作家15人が、仕事場で本音や哲学を語ります。山形県出身、あの荒井良二氏も登場!! アトリエも紹介されています。

こころの絵本、いのちの絵本を生み出す瞬間とは? 絵本を、もっともっと深く楽しむきっかけとなる1冊です。



『天国のママから届いた最後の贈り物』

マリー・ロール・ピカ/著 ふじもとのりこ/翻訳(講談社)

母は強しとはこのことです。病と闘いながらも最後まで4人の子供たちの事を第1に考え行政に立ち向かっていく姿には、感動と勇気をもたらしました。余命宣告を受けた母が、自分の死後、子供たちが、今まで通った学校へそして4人がバラバラにならずに一緒に生活できるように奮闘した実話です。また、先日映画『ボクの妻と結婚してください』を観



てきました。こちらも死を宣告された夫が、残される家族の幸せだけを願い駆け回る姿に涙が溢れてしまいました。原作本樋口卓治/著、続編『天国マイルージ』(講談社)共に、当館にございます。



~あなたにとっての贈り物とは~

『あしたのお弁当』 飯島 奈美/著(主婦と生活社)

「贈り物」という言葉からすぐ連想されるのは誕生日、クリスマスなどの特別な日ですが、少し思いを巡らせてみると日々の暮らしのなかにも多くの贈り物を見出すことができます。

たとえば、お弁当もそのひとつ。本書の著者は映画や広告の世界で活躍しているフードスタイリストの飯島奈美さん。素朴ながら奥深い正統派お弁当レシピの数々が紹介されています。作りおきできるものや、応用の利くレシピが多いのが特徴で、忙しい生活を送っている方や、お弁当作りを基礎から学びたい方におすすめの1冊です。

心のこめられたお弁当はフタを開けて嬉しく、食べて美味しい素敵な贈り物です。当館の蔵書が大切な方への贈り物の参考となりましたら幸いです。



『ロビンの赤いベスト』 ジャン・フィアンリー/さく、

まつかわ まゆみ/やく(評論社)

クリスマスまであと1週間。コマドリのロビンはそれまでに着るベストを7枚用意して当日を楽しみにしていました。でも寒さに震える動物たちにベストを譲ってしまい、とうとう最後の1枚に。みんなにやさしい気持ちをプレゼントし続けたロビンにもある人からとっておきの贈りものが...

シンプルなストーリーで、動物たちが身につけるベストの色を当てたり、ベストの数を一緒に数えたり2、3歳くらいのお子さんから楽しめると思います。ほんわかやさしい色づかいの絵がかわいらしい、クリスマスにぴったりの絵本です。



『岸辺のヤービ』

梨木香歩/作、小沢さかえ/画

(福音館書店)

寄宿学校の教師であるウタドリさんと小人のヤービの交流を描いた不思議なお話です。2人の交流はウタドリさんがミルクキャンディをヤービにプレゼントした事から始まります。児童書らしいわかりやすい文章で綴られるウタドリさんやヤービたちクイー族の生活は、シンプルだけど四季や日々の当たり前を大切にしている大人の方にも響きます。本の装丁もとても素敵です。ぜひ本の外函の中もチェックしてみてください。かわいらしいクイー族の姿に、ますますこの本を好きになってしまいますよ。



プレゼント...贈る側、贈られる側どちらもワクワクしますよね♪ 今年は何を贈りましょうか? と考えている時間さえも楽しくなります。こちらで紹介した本はすべて当館にございます。ご予約もできますので、お気軽にカウンターまでお問合せください♡

